

長谷川慶太郎著「長谷川慶太郎 アジアの行方―大激動の真実を知れ！―」実業之日本社、2013 年 4 月 18 日刊を読む

ROTCで韓国の若者は必死に勉学に勤しむ

1. 韓国の青年は兎に角、勤勉です。たとえば、ソウルの高校生は学校に通学する傍ら、受験塾に行くのです。みんな昼飯と夜飯、弁当を 2 食分持っていきます。でないと間に合わないのです。高校の授業が終わったら、すぐに塾に走り、受験塾で夜 9 時まで講義を聞いて、それで家に帰ります。韓国では一流大学と二流大学とでは大きな格差があります。
2. どういう格差かというと、ソウル大学、高麗大学といった一流大学はすべて、軍事訓練で ROTC（予備役将校訓練過程）を採用しています。アメリカの大学も同じです。ROTC を採用した大学で、毎週軍事訓練を受けますと、4 年経って大学を卒業し徴兵されると、将校の少尉として軍隊に入ることができるのです。ところが、ROTC のない大学を卒業し、徴兵されると二等兵として軍隊に入らないといけないのです。
3. ROTC に入って卒業した青年は少尉ですから、軍隊での待遇は二等兵とはまるっきり違います。ROTC に入るためには、一流大学に入らないとダメですから、一流大学の競争率がべら棒に高いわけです。韓国の青年は、それでセレクトされます。
4. そこで、青年の進路が決まってしまうのです。それで、一生懸命に勉強するわけで、日本のようなゆとり教育などは、とんでもないことです。ゆとり教育は韓国にはありません。

P142

[コメント]

なぜ韓国の中高生は必死になって大学受験の勉強をするのか。高校生の多くが死に物狂いとも言えるほど大学入試の勉強をするのか、その大きな理由の 1 つが ROTC。そのことを長谷川慶太郎先生はよく御存知だ。

— 2013 年 4 月 20 日 林 明夫記 —